

洗足学園音楽大学

# 専攻科修了演奏会

2021年1月25日[月]

13:30開演 | 13:15開場

洗足学園 前田ホール



洗足学園音楽大学



飯村 紗雪(ピアノ)

## Profile

1998年東京都出身。洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。10歳で姉の影響でピアノを始める。中学、高校と吹奏楽部に所属しトロンボーンを担当。第55回、第56回東京都高等学校吹奏楽コンクールでは金賞受賞。大学在学中3年次に井上道義の《スマリー・コンクリート》、4年次にはラヴェル作曲の《マ・メール・ロワ》でシルヴァン・カンブルランと共演。現在、洗足学園音楽大学専攻科ピアノコース在学中。ピアノを谷川明氏に師事。

## Program

R.シューマン／ウィーンの謝肉祭の騒ぎ（幻想的絵画）作品26より

Robert Schumann(1810-56) // Faschingschwank aus Wien(Fantasiebilder)op.26

第1曲 Allegro

第4曲 Intermezzo

第5曲 Finale

## Program Note

この曲はドイツ・ロマン派を代表する作曲家であるロベルト・シューマンによって書かれた作品である。ロベルトは5人兄弟の末っ子で、出版業界で文学者でもあった父親のもとで早くから音楽や文学に親しみ、作曲や詩作に豊かな才能を示した。

『ウィーンの謝肉祭の騒ぎ』はそんなシューマンが1833年の秋から翌39年にかけて滞在したウィーンでの作品で、彼が体験した謝肉祭の騒がしさや賑やかさなどを幻想的に描いたものである。全5曲からなるが、第4曲までは1839年の3月以前のウィーン滞在中に、最後の第5曲はライプツィヒに戻った同年の3月以降に書かれた。今回演奏するのはその中の第1曲、第4曲、第5曲である。

第1曲アレグロ、変ロ長調、4分の3拍子、ロンド形式。舞曲風のロンド主題に5つのエピソードが挿入されている。この中で第4のエピソードが力強く現れ、フランス国家《ラ・マルセイエーズ》が聞こえてくる。これは当時のウィーンでは公に歌うことを禁じられていたが、シューマンはこの歌を好んでいたようで敢えて用いている。曲はその後第5のエピソードのあとロンド主題を出し、第2のエピソードによるコーダで締めくくられる。

第4曲インテルメッツ、変ホ短調、4分の4拍子、感情表現の大きな作品で、表現の面でこの曲集の他の作品と比較して独立性が強い。終始一貫して現れる3連符の伴奏上に、暗く美しい叙情的な旋律が、変ホ短調から変ロ短調、変イ短調へと色彩を変えて歌われていく。

第5曲フィナーレ、変ロ長調、4分の2拍子、ソナタ形式。作品全体を締めくくるのに相応しい曲である。全体的に細かい音型が現れて興奮が覚めぬ様子が描かれている。



佐久間 由希乃(ピアノ)

## Profile

東京都出身。洗足学園音楽大学音楽学部ピアノコース卒業。5歳からピアノを始める。これまでピアノを末木裕美氏に師事。大学在学中は歌曲・オペラ伴奏の研究、器楽伴奏に積極的に取り組む。学外では、部活動の指導やボランティアなど、教育現場でも活動を広げ、音楽を通じた社会貢献の可能性を模索している。現在、洗足学園音楽大学専攻科在籍中。

## Program

F.シューベルト／《即興曲集》より 第3曲 変ト長調 D899 作品90-3

Franz Schubert(1797-1828) // Impromptus Ges-dur D899 op.90-3

F.シューベルト／《即興曲集》より 第4曲 変イ長調 D899 作品90-4

Franz Schubert(1797-1828) // Impromptus As-dur D899 op.90-4

F.リスト／献呈（R.シューマン）S.566 R.253

Franz Liszt(1811-86) // Lieder von Robert Schumann Liebeslied "Widmung" S.566 R.253

## Program Note

《即興曲》D.899作品90はロマン派を代表する作曲家の一人、F.シューベルトが、亡くなる1年前に作曲した晩年の作品である。31歳という若さでこの世を去ったシューベルトは、ピアノ曲や歌曲など1000曲以上の作品を残している。即興曲とはいうものの即興演奏によって作られたものではなく、4つの小品をまとめたものであり、タイトルも出版社によって名付けられた。本日はそこから第3番と第4番を演奏する。

第3番変ト長調は三部形式。終始6連符で紡ぎ出される伴奏パートによって、息の長い美しい旋律が歌曲のように歌われる。中間部は低音のトリルや深い響きが特徴的である。

第4番変イ長調は複合三部形式。右手の分散和音と左手の和音による動きのあるリズムから始まる。中間部（トリオ）に表れる印象的な長短調の変換はシューベルトがよく取り入れている手法である。最後はコーダをつけず、変イ長調のままカデンツで締めくくられる。

《F.リスト「献呈」（シューマン）》S.566 R.253は、R.シューマン（1810-56）の歌曲《献呈》をリストがピアノ独奏曲に編曲した作品。原曲の歌曲は、1840年にシューマンが妻となるクララに贈った歌曲集《ミルテの花》に収められている。リストによる編曲は1848年。当時リストはドイツ文化の中心だったヴァイマルの宫廷に仕えており、指揮、教育、批評など様々な分野で活躍し、作曲のみならず編曲活動にも励んでいた。

リストが編曲した《献呈》は三部形式で作られており、原曲に忠実ながらも自身が得意とする超絶技巧を取り入れ、華麗なアルペジオや和音を用いて曲を情熱的に盛り上げ、最後はシューマンのクララへの想いに寄り添うように、印象深いコーダで終わっている。



荒又 恭子(声楽)

共演者：片倉 みなみ（ピアノ）

## Profile

東京都出身。洗足学園音楽大学音楽学部声楽コース卒業。16歳より声楽を始める。これまでに声楽を前原鮎子、吉田伸昭、沢崎恵美の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽専攻科声楽コースに在学中。

## Program

團 伊秋磨（1924-2001）／歌曲集《五つの断章》より

第一曲 野辺

第二曲 舟唄一片戀一

第四曲 朝明

G.ドニゼッティ／喜歌劇《リタ》より

Gaetano Donizetti(1797-1848) // Rita ou Le mari battu

家も旅籠もうまくいく Van la casa e l'albergo a gonfie vele

## Program Note

北原白秋の詩による《五つの断章》は、1946年（昭和21年）に作曲された。

〈野辺〉は、詩集『思ひ出』の一編。麗かな春の夕暮れ、たんぽぽの香りと淡く白い綿毛が甘く散乱している野に、一人の女が泣き出した。涙に込められた切なさ、悲しみが溢れ出る瞬間を見た時、切ない感情が少年の胸に染み込み、「なぜおまえは泣くのか」と憐れみと切なさ、少しのときめきをもって心の中で聞いかけた。

〈舟唄一片戀一〉は、詩集『東京景物詩』の一編。"あかしやの金と赤とがちる"とは初秋の日暮れ頃、鮮烈な夕日が白い花を華麗に染めているようす。片想いの憂いはフランネルのような繊細で甘美な悲しみと表現される。東京都墨田区曳舟のはとりを歩き、柔らかく頬を撫でる風に、はらはらとあかしやは散る。片想いの相手の柔らかな吐息を空想させる。

〈朝明〉は、詩集『思ひ出』の一編。朱いレンガ造りの窓の影にひっそりと咲くすみれの花に、今、窓で焼かれた若しくして世を去った妹の面影を見ている。早朝、草に滴る露は詩人の涙を暗示。昔の火葬は遺骨になるまで一晩かかり、骨拾いは翌日に行っていた。火葬場の片隅に咲く可愛らしいすみれの花に亡き人を偲んでいる内容である。

《リタ》は全1幕のオペラ・コメディックで、1860年にパリのオペラ・コミック座で初演された。台本はヴァエーズ。〈家も旅籠もうまくいく〉は、その最初のアリアである。舞台は18世紀の北イタリア。リタは旅籠の女将で勝氣があり、女王様気質の性格をしている。前の夫には暴力を振るわれていたが、今度の夫は薄のろだから平手打ちを喰らわせられると楽しそうにし、機転の利かない男こそ理想の夫よと堂々と歌い上げる。

## 河内山 魁莉(声楽)



共演者：林 茜月（ピアノ）

### Profile

1997年神奈川出身。洗足学園音楽大学声楽コース卒業。声楽を牧野正人氏に師事。中学2年次に校内合唱コンクールにて学園優勝、中学3年次ではソロを担当。中学、高校と吹奏楽でホルンを担当。中学3年夏のコンクールにて、東関東大会銀賞。高校3年夏のコンクールにて東関東大会銀賞。2013年3月、2016年3月、母校の中学校定期演奏会にて、ライオンキングのキャスト、ザズー、スカーフ王として出演。現在、洗足学園音楽大学専攻科声楽コース在籍中。

## Program

S.ドナウディ／歌曲集《古典様式による36のアリア》より

Stefano Donaudy(1879-1925) // 36 Arie di stile antico

新鮮な土地、芳しい野よ Freschi luoghi, prati aulenti

W.A.モーツアルト／歌劇《ドン・ジョヴァンニ》K.527 より

Wolfgang Amadeus Mozart(1756-91) // Don Giovanni K.527

私の恋人を慰めに行ってください Il mio tesoro intanto

G.ロッショーニ／歌劇《セミラーミデ》より

Gioachino Rossini(1792-1868) // Semiramide

甘美な希望がこの魂を誘惑して La speranza più soave

## Program Note

〈新鮮な土地、芳しい野よ〉は、S.ドナウディが作曲した《古典様式による36のアリア》という歌曲集の中の13番目の曲である。〈私の恋人を慰めに行ってください〉は、オペラ《ドン・ジョヴァンニ》の第2幕、オッターヴィオが歌うアリアである。このアリアはドン・ジョヴァンニがアンナの父の仇であるという確信が強まり、アンナの復讐は自分が行う、その間アンナの様子を見ていてほしいと、同行者らに伝え、アンナへの強い想いをのせ、歌うアリアである。この曲を通じ、オッターヴィオの、アンナへの愛情が変わらず強いものだと感じられる。《セミラーミデ》は、ロッショーニが1823年に作曲したオペラ・セリアで、彼のイタリア時代最後の作品となった。〈甘美な希望がこの魂を誘惑して〉は、このオペラの第2幕で、インドの王子イドレーノが歌うアリアである。舞台は古代バビロニア、場所はセミラーミデの部屋の前。イドレーノは、アゼーマ姫に相手が居たことを知り驚くが、それでも尚、自分に対して求愛することを求める。8分の6拍子のAndantinoでアゼーマ姫からの愛を得たと妄想し、既に自分の魂は喜んでいると思いつつ、Allegroになってから合唱が入り、イドレーノの想いが強くなっていく。歌詞も段々と、愛の強さゆえの強要の意が感じられる内容になっていく。

## 白石 渉(声楽)



共演者：林 茜月（ピアノ）

### Profile

静岡県沼津市出身。声種はテノール。6歳からピアノを習い始め、中学校吹奏楽部にてホルンを始める。静岡県立沼津西高校芸術科音楽学科にてホルンを専攻し卒業。洗足学園音楽大学声楽コース入学。在学中に2019年度特別選抜演奏者に認定される。多摩美術大学とのコラボレーションオペラ、『魔笛』日本語公演にてタミーノ役を、「コジ・ファン・トゥッテ」にてフェラント役を務める。学内ゼミの日本語公演にて、「魔笛」タミーノ役、「カルメン」ドン・ホセ役を務める。これまでに声楽を牧野正人、江原陽子、各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学専攻科在学中。

## Program

G.ドニゼッティ／歌曲集《インフラスカータの秋のタベ》より

Gaetano Donizetti(1797-1848) // Soirées d'automne à l'Infrascatto

船乗りの恋（私は家を作りたい）Amor marinaro(Me voglio fà 'na casa)

G.ドニゼッティ／歌劇《愛の妙薬》より

Gaetano Donizetti // L'Elisir d'amore

人知れぬ涙 Una furtiva lagrima

Ch.グノー／歌劇《ロメオとジュリエット》より

Charles Gounod(1818-93) // Roméo et Juliette

恋よ、恋よ！ L'amour ! L'amour !

## Program Note

〈船乗りの恋（私は家を作りたい）〉は、ドニゼッティが1836年に作曲した歌曲集《ボジリボの夏の夜》の続編として1837年に作った歌曲集《インフラスカータの秋のタベ》に含まれる1曲。

歌劇《愛の妙薬》では、ネモリーノという若い男がその村の地主の娘であるアディーナに恋をしているが、勝気で教養もあり美人な彼女を高嶺の花だと思っている。彼女も好意を抱いているが、行き違うばかり。でたらめな妙薬を買うためにネモリーノは兵士に志願するが、彼の伯父が亡くなり遺産を相続するという噂が村に広がり、村の娘たちにちやほやされる。アディーナは彼が自分のために兵役につくと決心したことを知り心打たれる。その様子を遠目に見たネモリーノは妙薬が効いたに違いないと喜び、〈人知れぬ涙〉を歌う。ドニゼッティは、歌劇の創作以前にすでに作っていたこのアリアを、この作品のこの部分にあてようと強く要求したようである。実際にこの作品にぴったりはまる歌だったからであろう。

歌劇《ロメオとジュリエット》は、ウィリアム・シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を原作に作られた。彼の劇を題材にしたオペラは数多く残っているが、その多くは原作に忠実に台本が作成されている。モンタギュー家とキャビュレット家というヴェローナの2つの名家は、長年血で血を洗う仇敵同士であった。しかし、前者のロメオと後者のジュリエットは舞踏会場で出会って間もなく恋に落ちる。いったん別れたのち、ロメオはもう一度ジュリエットに会おうと彼女の邸宅の庭に忍び込む。そしてその際にジュリエットを呼ぶため、「君は僕の太陽だ」と呼び、このカヴァティーナ〈恋よ、恋よ！〉を歌う。

## 芳村 早紀子(声楽)

### Profile

12歳よりフルートを、16歳より声楽を始める。八雲学園中学高等学校を卒業。洗足学園音楽大学音楽学部管楽器コースにフルートで入学。

大学3年次に声楽科に転科し、同大学声楽コース卒業。フルートを安本恵子、苗代恵理子、酒井秀明、菅井春恵各氏に師事。声楽を保川将一、酒井泰子、斎藤由美子、塙田美奈子の各氏に師事。

## Program

A.カゼッラ／歌曲集《1300年代の3つの歌》作品36

Alfredo Casella(1883-1947) // 3 Canzoni Trecentesche op.36

第1曲 美しい人よ、私の心の光よ Giovane bella, luce del mio core

第2曲 美しい鳥かごから Fuor de la bella gaiba

第3曲 愛しい人よ、お前が好きだ Amanti sono, vagheggia, di voi

G.ドニゼッティ／歌劇《ランメルモールのルチア》より

Gaetano Donizetti(1797-1848) // Lucia di Lammermoor

あたりは静寂に包まれ。Regnava nel silenzio

## Program Note

A.カゼッラは、両大戦間のイタリア音楽界を代表する作曲家。パリ音楽院で学び、G.フォーレに作曲を師事し、フランス印象派の影響も強く受けている。

《1300年代の3つの歌》は1923年に作曲された。〈美しい人よ、私の心の光よ〉は、ビストイアの詩による。新古典主義の響きにのせて、ルネサンス期のイタリアで創始されたソネットの詩が技巧的に組み合わされており、若々しい愛が歌われている。〈美しい鳥かごから〉は作詞者不明。鳥かごから飛び立つ夜鶯の音や、森へと重い足取りで進む男の子のおびえた足取りをピアノの伴奏で、子供の嘆きを歌で表すなど、情景描写が豊かな曲である。〈美しい人よ、お前が好きだ〉も作詞者不明。リズミカルな伴奏に乗って初期ルネサンス期の活気あふれる情景を表している。

《ランメルモールのルチア》はG.ドニゼッティが1835年に作曲したオペラで、同年ナポリのサン・カルロ劇場で初演された。原作は、スコットランドの作家W.スコットの小説『ラマムアの花嫁』で、実際にスコットランドで起きた事件を元にしている。台本はS.カンマラーノによる。

〈あたりは静寂に包まれ〉は、第1幕でヒロインのルチアによって歌われる。ルチアとエドガルドは恋人同士だが、両家は敵対関係にある。ルチアは没落の危機に瀕した家を守るために、アルトゥーロと政略結婚させられそうになる。そんな中、恋人のエドガルドと密会するために、ルチアは侍女アリーザと共に城から抜け出す。ルチアはエルガルドを待ちながら、嫉妬に駆られた男が女を刺し殺して泉に沈めたという昔話と、自分もその運命になるのではないかという恐れを語り、彼への恋が私の全てだと歌う。

## 井山 優希(フルート)

### Profile

小学3年生から独学でフルートを始める、中学校入学と同時に吹奏楽部でフルートを担当、その後高校でも吹奏楽部に所属し、フルートを続ける。これまでにフルートを佐藤大祐、菅井春恵の各氏に師事。

## Program

B.マルティヌー／ファースト・ソナタ

Bohuslav Martinu(1890-1959) // First Sonata

第1楽章 Allegro moderato

第2楽章 Adagio

第3楽章 Allegro poco moderato

共演者：松井 洋子（ピアノ）

## Program Note

ボフスラフ・マルティナーは、ボヘミアのボリチュカ生まれのチェコの作曲家である。

父親は靴の修繕屋で教会の鐘楼守もしており、恵まれた環境にあった。7歳の頃にヴァイオリンを始める。周囲の勧めや援助がありプラハ音楽院に入学したものの、出席日数が足りず退学になる。その後故郷の小学校で教員をした後、チェコの管弦楽団の第2ヴァイオリン奏者となる。パリ・アメリカ・ヨーロッパと拠点を変えながら音楽活動を続け、400作もの作品を残した。その点で多作な作曲家と言える。

フルートとピアノのための《ファースト・ソナタ》はアメリカ滞在中の1945年に書かれたもので、全楽章を通じ、マルティナー独自の自発的な動的リズムが見られ、生命力に満ちている。

第1・3楽章は軽快なフットワークを感じさせ、第2楽章は叙情に富む。また、第3楽章には北米のヨタカの鳴き声が模倣されている。



狩俣 真子(フルート)

### Profile

沖縄県出身。洗足学園音楽大学音楽学部管楽器コース卒業。小学校2年でマーチングを始めトランペット、トロンボーンを学ぶ。中学でフルートを始め、中高と吹奏楽部に所属。現在、洗足学園音楽大学専攻科に在学中。フルートを山田州子氏に師事。

共演者:岡部 彩(ピアノ)

## Program

尾高 尚忠／フルート協奏曲 作品30B

Hisatada Odaka(1911-51) // Concerto op.30B

第1楽章 Allegro con spirito

第2楽章 Lento

第3楽章 Molto vivace

## Program Note

尾高尚忠は日本の作曲家、指揮者である。1931年にウィーンに留学し、ピアノ、音楽理論を学んだ。翌年武蔵野音楽学校で作曲をクラウス・ブリンクスハイム、ピアノをレオ・シロタに学んだ。その後《日本組曲》や交響詩《芦屋乙女》などの自作を指揮するなどヨーロッパ各地のオーケストラで活躍し、ウィーン交響楽団やベルリン・フィルハーモニー交響楽団の指揮台にも登壇。1940年に帰国して日本デビューを飾り、新交響楽団の指揮者として活動した。

この《フルート協奏曲》は、もともと1947年に独奏フルートと二つのホルン、ハープと弦楽合奏のための《フルート小協奏曲》として作曲され翌年に初演されたものの、その後尾高は管弦楽の部分をフル・オーケストラにしようと思い、改訂作業を行なったものの、終楽章の数ページを残したまま他界。この空白は弟子の林光によって補筆、完成された。

伝統的な急-緩-急の3楽章からなり、全体的に明るい流動感に満ちている。第1楽章は日本音階を用いており、独奏フルートは即興的な装飾が多く施された技巧的なメッセージが続くのが特徴的である。第2楽章はシンメトリックな構造を持つ楽章で、東洋の瞑想的な雰囲気が感じられる。第3楽章は、フルートが無窮動風の主題を奏し、オーケストラ（本日はピアノ伴奏）で繰り返され、壮大で華やかな音楽で終わる。日本的・東洋的な趣を持ちながらも、調性、主題、形式のいずれにおいても明確な作品である。



洗足学園音楽大学

ひと、音楽、未来、世界をつなぐ。

洗足学園音楽大学は、音楽の学びと実践を通じて、  
豊かな社会づくりに貢献します。

渡辺 夏来(打楽器)

### Profile

埼玉県鶴ヶ島市出身。洗足学園音楽大学打楽器コース卒業。7歳よりピアノ、12歳より吹奏楽部で打楽器を始める。これまでにピアノを希代智子、打楽器及びマリンバを石井喜久子、マリンバを坂口あき、神谷百子の各氏に師事。室内楽を石井喜久子氏に師事。在学中にスチールパン部、pan note paradiseに所属し、ダブルテナーパンとテナーパンを担当。数多くの演奏会に出演する。またアニメ「轟けユーフォニアム」のイベントに打楽器奏者として出演する。2017年エマニュエル・セジヨルネのマスタークラスを受講。第28回日本クラシック音楽コンクール全国大会出場。優秀賞受賞。現在、洗足学園音楽大学専攻科に在学中。

## Program

A.ゲラシメス／アスペンチュラス

Alexei Gerassimez(b.1987) // Asventuras

A.ピアソラ (P.チエン編曲)／ブエノスアイレスの夏

Astor piazzolla(1921-92) (arranged by Pius Cheung) // Verano Porteno

## Program Note

アレクセイ・ゲラシメスはドイツのエッセン出身の打楽器奏者。クラシックから現代作品、ジャズ、ミニマル音楽をレパートリーとし活躍している。また作曲家としてもレパートリーを広げ、聴衆に打楽器の可能性を知ってもらうために彼自身の作品はリズムや音の響きの可能性を追求した独創的で印象深いものが多い。

《アスペンチュラス》(2011年)は自然な音楽的展開を考慮しながらも、スネアドラムひとつで各部位を限りなく多様な音色で鳴らすのが特徴的な作品となっている。スネアドラムといえば本来スティックを使い演奏するというイメージだが、《アスペンチュラス》はスティックのみならず、ブラシやティンパニ・マレット、はたまた指で鳴らす指示が出てくる。この曲を通してスネアドラムの可能性とその奥深さに心が打たれることだろう。

パイアス・チエンは香港出身のマリンバ奏者である。天才的な超絶技巧だけでなく、深く豊かな表現力と明快な楽曲の解釈、色彩感覚とダイナミクスをかね備えた演奏が世界的に高く評価されている。また作曲家としても活動をし、マリンバのための協奏曲、エチュードや編曲等多数の作品を発表している。《ブエノスアイレスの夏》はバンドネオン奏者でタンゴ界の革命児と呼ばれたアストラ・ピアソラ(1921-92)が作曲した《ブエノスアイレスの四季》シリーズの第1作目。1965年にピアソラがブラジルからの帰国途中の飛行機の中で書かれ、ブエノスアイレスの気だるく暑い夏の雰囲気を表現している。パイアスはそれをマリンバ用に編曲した。その際、原曲の5重奏の響きを転写することから始めた後に、ピアソラのタンゴのメロディーを強く残しつつ、独自の即興性を加えている。